Operation Guide 3315

CASIO

操作のしくみと表示の見方

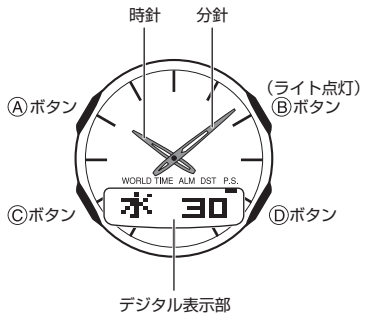
Ⓒ ボタンを押すごとに確認音が鳴り、モードが切り替わります。

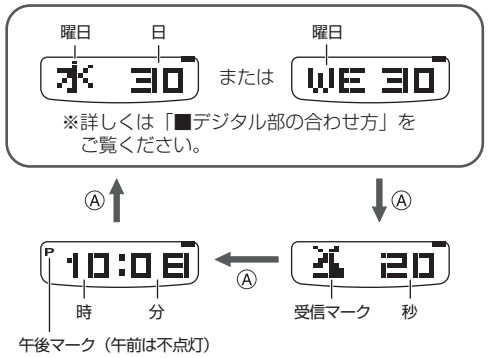
※バッテリーモード、アラームモード、ハンドセットモードのまま２～３分すると、自動的に時刻モードに戻ります。

時刻モード

●表示切り替えについて

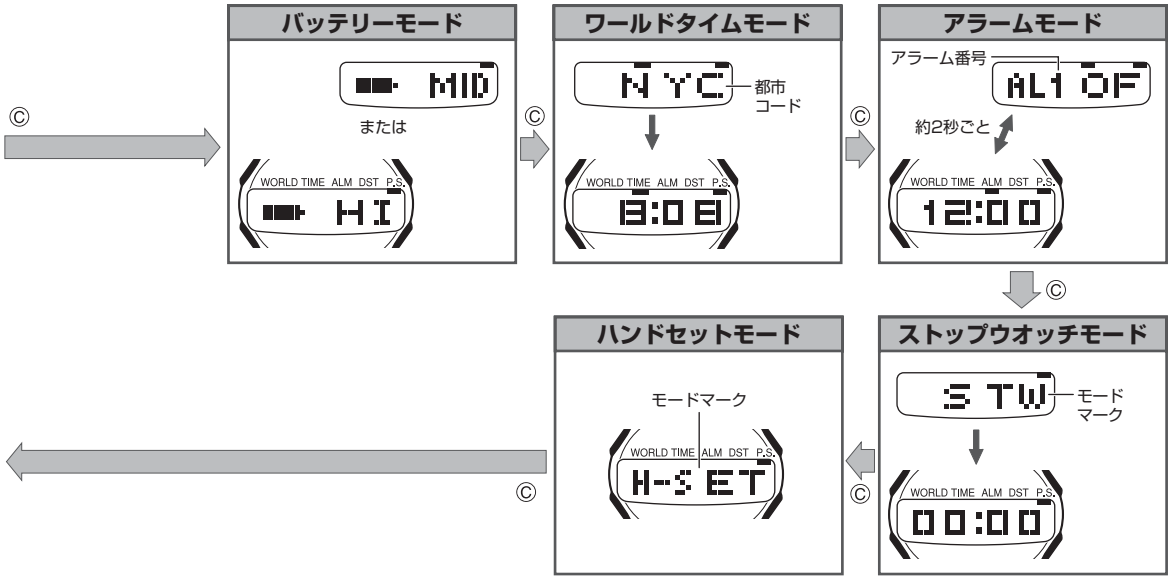
Ⓐボタンを押すごとに、デジタル部の表示が切り替わります。





★英語表示（曜日）の見方

SU：日　MO：月　TU：火　WE：水
TH：木　FR：金　SA：土



電源について

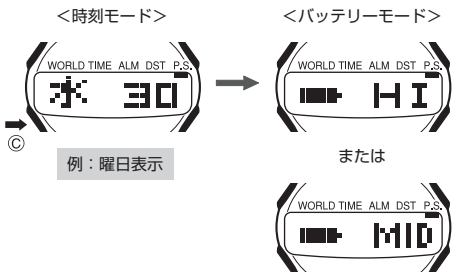
本機はソーラーセルで発電し、二次電池に充電しながら使うようになっております。
光が当たりにくい場所での保管および使用、長袖で本機が隠れたままの使用が長時間続きますと、二次電池が消耗して表示しなくなることがあります。
安定してご使用いただくために、なるべく光に当たるようにしてお使いください。

ご注意

二次電池が消耗して時計機能が停止すると(レベル4)、設定データは消去されます。

●電池残量の確認

二次電池の残量を確認するには、バッテリーモードに切り替えます。
※バッテリーモードに切り替えるには、時刻モードのときにⒸボタンを１回押します。



レベル1	HI	通常動作可能
レベル2	MID	通常動作可能
レベル3		電波受信不可、アラーム・時報などの報音不可、ライト点灯不可、液晶表示不可、運針不可
レベル4		時計発振不可（時計機能停止）

※直射日光下などの強い光で充電した場合、二次電池の残量が一時的に実際の電池容量より高いレベルを表示することがあります。レベルは充電後しばらくしてから確認してください。
※レベル３では、アラーム・時報がONでも報音しません。電波受信も行ないません。
※レベル2にまで充電が回復すれば、電波受信を開始します。
※レベル４になっても、充電を開始すると再び使えるようになりますが、表示回復後に時刻・カレンダーを合わせてください。

●充電必要サインについて

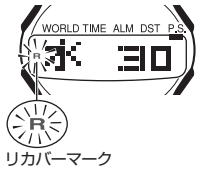
レベル３状態は、電池残量が極端に少なくなっています。このときは、本機を光に当てて、十分に充電を行なってください。

●リカバーマークが点灯している場合

ライトやアラームなどを短時間に連続して使用し、電池に大きな負担がかかった場合、リカバーマークが点灯して、一時的に以下の操作ができなくなります。

●ライトの点灯
●アラーム・時報などの報音
●運針
●電波受信

このような場合は、時間がたてば電池電圧が復帰し、使用できるようになります。



●充電時のご注意

以下のような高温下での充電はお避けください。

●炎天下に駐車中の車のダッシュボードの上
●白熱ランプなどの発熱体に極端に近い所
●直射日光が長く当たって、高温になる所

なお、極端な高温下では液晶パネルが黒くなることがありますが、温度が下がれば正常に戻ります。

⚠ 充電の際、光源の条件によっては時計本体が極端に高温になることがありますので、やけどなどをしないようにご注意ください。

●充電のしかた

本機のソーラーセル部を光源に向けます。
※ソーラーセルの一部が隠れていると充電効率が下がりますのでご注意ください。

例）時計の置き方



※イラストは樹脂バンドの場合です。

●充電の目安

本機は一度フル充電すると、充電しなくても基本動作に加え、下記の条件で使用した場合に約4ヶ月動き続けます。

1日あたりの使用量
- ライト：約1.5秒間
- アラーム報音：約10秒間
- 電波受信：5回

なお、こまめに充電を行なえば、安定してご使用いただけます。

* 基本動作とは、時計内部の時刻演算処理と針の運針動作のことです。

〈1日動くのに必要な充電時間〉
※左記の条件で使用した場合。

環境（照度）	充電時間
晴れた日の屋外など（50,000ルクス）	約5分
晴れた日の窓際など（10,000ルクス）	約24分
曇り日の窓際など（5,000ルクス）	約48分
蛍光灯下の室内など（500ルクス）	約8時間

- 各レベルに回復するための充電時間

環境（照度）	充電時間 レベル4 ➡ レベル3 ➡ レベル2 ➡ レベル1		
晴れた日の屋外など（50,000ルクス）	約1時間	約8時間	約4時間
晴れた日の窓際など（10,000ルクス）	約3時間	約41時間	約19時間
曇り日の窓際など（5,000ルクス）	約7時間	約83時間	約39時間
蛍光灯下の室内など（500ルクス）	約64時間	–––	–––

※この充電時間は目安のため、実際の環境下においては充電時間が異なる場合があります。

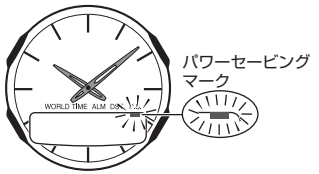
パワーセービング機能について

本機は工場出荷時に「パワーセービング機能」をオンに設定してあります。
※パワーセービング機能とは、暗いところに放置すると自動的に液晶表示を消してスリープ状態にし、節電する機能です。
※時計が袖などで隠れている場合でも、表示が消えることがあります。

●スリープ状態になるには

- 表示スリープ
  暗いところで本機を3～4日間放置します。
  ➡液晶表示が消え、パワーセービングマークが点滅します。
  アラーム・時報の報音は行ないます。
  アナログ針は運針を継続し、自動受信も行ないます。

- 機能スリープ
  表示スリープのまま暗いところで4日間経過します。
  ➡アラーム・時報の報音は行ないません。
  アナログ針は運針を停止し、自動受信も行ないません。
  ※時計機能は正常に作動しています。



●スリープ状態を解除するには

本機を明るいところに置くか、いずれかのボタンを押します。
※本機を明るいところに出した場合は、表示が点灯するまでに最大2秒かかる場合があります。

●パワーセービング機能のオン／オフ

パワーセービング機能を働かせなくするには「■デジタル部の合わせ方」からの操作をご覧になり、パワーセービング機能をオフにしてください。

机の中などに長期間しまっておくときは、パワーセービング機能をオンにしておけば、節電効果があります。

ライト点灯について

どのモードでもⒷボタンを押すとライトが点灯し、デジタル部を明るくして見ることができます。

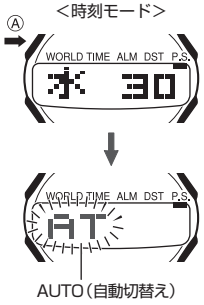


ライトの点灯時間は約1.5秒間と約2.5秒間のいずれかを選ぶことができます。

●点灯時間の設定

1. セット状態にする
時刻モードのとき

Ⓐ ボタンを約2秒間押します
➡受信電波の設定になります。



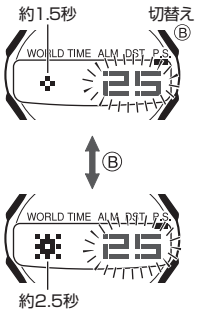
2. 秒を点滅させる

Ⓐ ボタンを1回押し、続けてⒸ ボタンを1回押します
➡秒が点滅します。



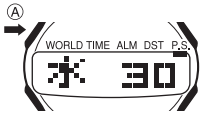
3. 点灯時間を選ぶ

Ⓑ ボタンを押します
➡Ⓑ ボタンを押すごとに約1.5秒間と約2.5秒間が切り替わります。



4. セットを終わる

Ⓐ ボタンを押します
➡点滅が止まり、時刻モードの表示に戻ります。

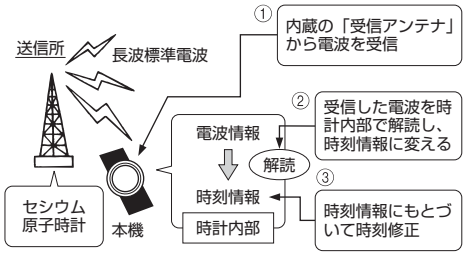


※ 点滅表示のまま2～3分間すると、自動的に点滅が止まります。

電波時計について

■ 電波時計とは

正確な時刻情報をのせた長波標準電波を受信することにより、正しい時刻を表示する時計です。



電波時計は正確な標準時を受信していますが、時計内部の時刻演算処理等により、時刻表示に1秒未満のズレが生じます。

■ 標準電波

●日本の標準電波（JJY）は独立行政法人通信総合研究所（CRL）が運用しており、福島県田村郡の「おおたかどや山標準電波送信所（40kHz）」および佐賀県と福岡県の境にある「はがね山標準電波送信所（60kHz）」から送信されています。

●アメリカの標準電波（WWVB）はNational Institute of Standards and Technology（NIST）が運用しており、コロラド州のFort Collinsから送信されています。

この標準電波は、ほぼ24時間継続して送信されていますが、保守作業や雷対策等で一時送信が中断されることもあります。

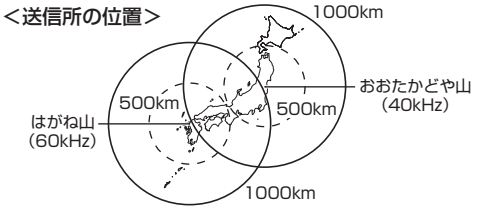
■ 電波の受信範囲の目安

本機は、ホームタイム都市を下記のように設定すると日本の標準電波（JJY）またはアメリカの標準電波（WWVB）を受信することができます。（ホームタイム都市の設定により受信する電波は異なります）

＊ ホームタイム都市の設定については「●ホームタイム都市の設定」参照。

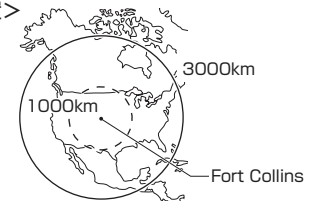
ホームタイム都市	受信電波
TYO	「おおたかどや山標準電波送信所（40kHz）」または「はがね山標準電波送信所（60kHz）」からの電波を受信します。
LAX、DEN、CHI、NYC	コロラド州のFort Collinsからの電波を受信します。

＜送信所の位置＞



●条件の良いときは、送信所からおよそ1,000km離れた場所でも受信することができます。
※ただし、約500kmを越えると電波が弱くなりますので、受信しにくくなることがあります。

＜送信所の位置＞



●条件の良いときは、送信所からおよそ3,000km離れた場所でも受信することができます。
※ただし、約1,000kmを越えると電波が弱くなりますので、受信しにくくなることがあります。

※受信範囲内であっても、地形や建物の影響を受けたり、季節や時間帯（昼・夜）などによって受信できないことがあります。
※電波の特性により、夜間の方がより受信しやすくなります。

■ 使用場所について

電波は、以下のような場所では受信しにくくなりますので、このような場所を避けて受信を行なってください。

※電波受信については、ラジオやテレビと同じようにお考えください。


ビルの中およびその周辺
（ビルの谷間など）


高圧線、架線の近く


乗り物の中
（自動車、電車、飛行機など）


家庭電化製品、ＯＡ機器のそば
（テレビ、スピーカー、ＦＡＸ、パソコン、携帯電話など）


電波障害の起きるところ
（工事現場、空港のそばなど）


山の裏側…など

受信がうまくいかないときは、上記のような場所から離れ、受信状況の良いところで再度受信してみてください。

■ 受信方法について

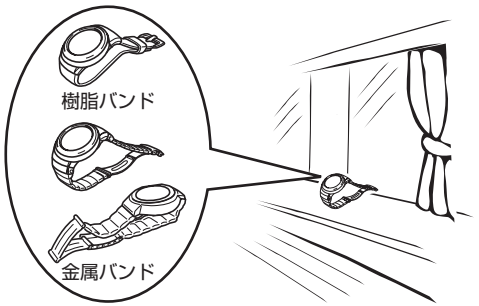
受信方法には、以下の２種類があります。

1 **自動受信（午前12・1・2・3・4時に自動受信します）**
2 **手動受信（ボタンを押して手動受信します）**

※自動受信が一度も成功しなかった場合のみ午前５時に受信を行ないます。
※工場出荷時には、自動受信を行なうようにセットされていますので、電波を受けるのに適した環境であれば、自動的に受信を行ない、正確な時刻を保ちます。

●受信しやすくするために

本機を腕からはずし、金属をさけて下図のように時計上部（12時位置のアンテナ）を外に向けて窓際に置いてください。



●時計本体を横向きに置くと受信しにくくなります。
●受信中、時計を動かさないようにしてください。

●受信時間は？

受信時間はおよそ２～６分です。

※ただし、受信電波の設定で「AT」（自動選局）を選んでいるときは、周波数を選択するため、最大12分かかる場合があります。

＊ 受信電波の設定については「■電波受信に関する設定」参照。

●手動受信

時刻モードのとき

Ⓓ ボタンを約２秒間押し続けます



➡確認音が鳴り、受信を開始します。受信中は表示が点滅して、受信マーク“ ”が変化します。

★受信を中止するときは

Ⓓ ボタンを押します

※受信中は Ⓓ ボタン以外の操作はできません。

★受信が成功すると

成功した時点で受信を終了し、時刻を修正後、確認音の報音とともに修正日時を表示します。

※修正日時表示後は、Ⓓ ボタンを押すか、１～２分間放置すると時刻モードの表示に戻ります。

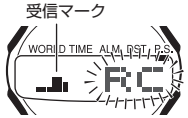
★受信が失敗すると

時刻修正は行なわれず、“ERR”を表示します。

※何も操作をしないと、１～２分後時刻モードに戻ります。

●受信マーク

受信中は受信状態によって受信マークが変化します。
安定状態がなるべく長く保てる場所で受信してください。





※受信しやすい場所でも、安定するまで約10秒ほどかかります。

●受信マークは、受信状態の確認および使用場所を決める際の目安としてお使いください。
●天候、時間、環境等により電波状況は変化します。

●受信日時の確認

時刻モードのとき

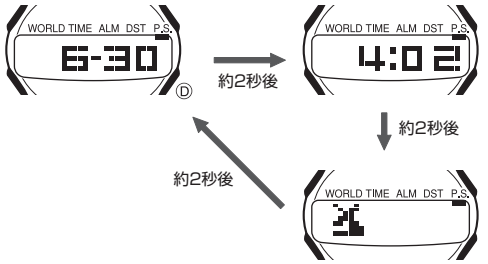
Ⓓ ボタンを押します

➡受信により最後に修正した月日と時分、受信マークを表示します。

※月日と時分、受信マークは2秒ごとに切り替わって表示されます。

※時刻モードに戻すには、もう一度Ⓓボタンを押します。

※何も操作をしないと、1～2分後時刻モードに戻ります。



■電波受信に関する設定

●ホームタイム都市の設定

お使いになる地域（都市）に合わせて設定します。

●サマータイムの設定

サマータイム（夏時間）の実施に合わせて設定します。

●自動受信の設定

電波受信を行なうかを設定します。

●受信電波の設定

受信する電波を設定します。

※自動受信の設定および受信電波の設定はホームタイム都市がTYO、LAX、DEN、CHI、NYCに設定されている場合のみできます。

なお、本機は工場出荷時に以下の内容でセットされていますので、日本でお使いの場合は、セットし直す必要はありません。

※電波受信がうまくできないときや受信できても時刻が合わない場合は、設定を確認してください。

ホームタイム都市	TYO	東京
サマータイム	A	電波受信による自動切り替え
自動受信	ON	オン
受信電波	AT	日本の標準電波（40kHz/60kHz）を自動選局

●ホームタイム都市の設定

ホームタイム都市を下記に設定した場合のみ、電波受信ができます。

※日本でお使いのときは、ホームタイム都市を「TYO」（東京）に設定してください。

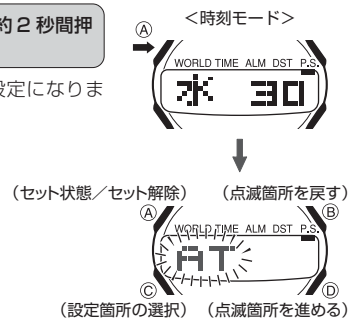
ホームタイム都市	受信電波
TYO	「おおたかどや山標準電波送信所（40kHz）」または「はがね山標準電波送信所（60kHz）」からの電波を受信します。
LAX、DEN、CHI、NYC	コロラド州のFort Collinsからの電波を受信します。

1. セット状態にする

時刻モードのとき

Ⓐ ボタンを約2秒間押します

➡受信電波の設定になります。



2.「ホームタイム都市設定」に切り替える

Ⓒ ボタンを1回押します

➡都市コードが点滅します。

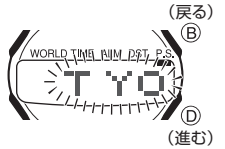
例）TYO（東京）



3. 都市コードを選ぶ

Ⓓ または Ⓑ ボタンを押します

➡Ⓓボタンを押すごとに都市コードが進み、Ⓑボタンを押すごとに戻りますので、お使いになる都市（地域）を選びます。



※ Ⓓ・Ⓑボタンとも押し続けると早送りができます。

※ 都市コードについては、「■都市コード一覧」をご覧ください。

4. セットを終わる

Ⓐ ボタンを2回押します

➡点滅が止まり、時刻モードの表示に戻ります。



※ 点滅表示のまま2～3分間すると、自動的に点滅が止まります。

●サマータイムの設定

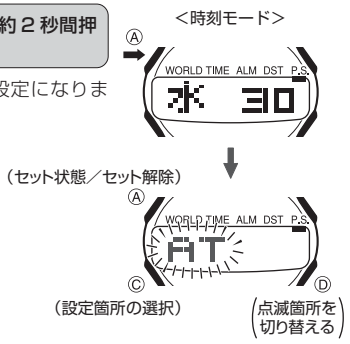
※日本でお使いのときは、サマータイムを「A」（AUTO）に設定することをお勧めします。

1. セット状態にする

時刻モードのとき

Ⓐ ボタンを約2秒間押します

➡受信電波の設定になります。

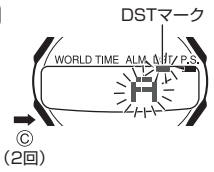


2.「サマータイム設定」に切り替える

Ⓒ ボタンを2回押します

➡DSTマークと設定内容が点滅します。

例）A=AUTO（オート）

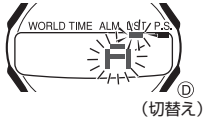


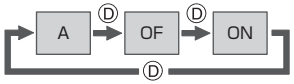
3. 設定を選ぶ

Ⓓ ボタンを押します

➡Ⓓボタンを押すごとに下の順で切り替わります。

※ サマータイムがオン（ON）のときは、1時間進みます。





● A（AUTO）

電波受信により、自動的にサマータイムのON／OFFが切り替わります。

※ホームタイム都市がTYOのときは日本のサマータイム情報に、NYC、CHI、DEN、LAXのときはアメリカのサマータイム情報に合わせます。

※自動切り替えの設定はホームタイム都市がTYO、LAX、DEN、CHI、NYCに設定されている場合のみできます。

● OF（OFF）

サマータイムはOFFになります。（通常時間）

● ON

サマータイムはONになり、通常時刻より1時間進みます。（夏時間）

※DSTマークが点灯します。

4. セットを終わる

Ⓐ ボタンを2回押します

➡点滅が止まり、時刻モードの表示に戻ります。



※ 点滅表示のまま2～3分間すると、自動的に点滅が止まります。

サマータイムとはDST（Daylight Saving Time）とも言い、通常の時刻から1時間進める夏時間制度のことです。
サマータイムの採用時期は国や地域により異なりますし、採用していないところもありますのでご注意ください。

●自動受信の設定

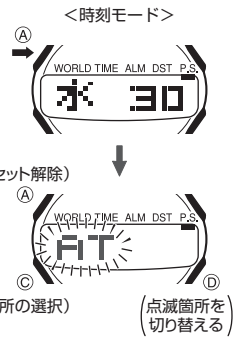
ホームタイム都市をTYO、LAX、DEN、CHI、NYCに設定した場合のみ、自動受信の設定ができます。
※日本でお使いのときは、自動受信を「オン」（ON）に設定することをお勧めします。

1. セット状態にする

時刻モードのとき

Ⓐ ボタンを約２秒間押します

➡受信電波の設定になります。

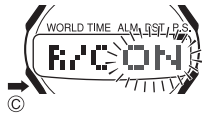


2. 「自動受信設定」に切り替える

Ⓒ ボタンを３回押します

➡「R/C」と表示され、設定内容が点滅します。

例）ON（オン）

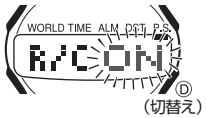


3. オン／オフを切り替える

Ⓓ ボタンを押します

➡Ⓓ ボタンを押すごとにオン（ON）とオフ（OF）が切り替わります。

※ ホームタイム都市がTYO、LAX、DEN、CHI、NYC以外のときは、「R/C－－」と表示されて切り替えができません。



4. セットを終わる

Ⓐ ボタンを２回押します

➡点滅が止まり、時刻モードの表示に戻ります。



※ 点滅表示のまま2～3分間すると、自動的に点滅が止まります。

●受信電波の設定

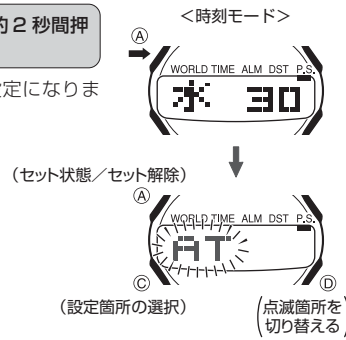
ホームタイム都市をTYOに設定した場合のみ、受信電波の設定ができます。
※日本でお使いのときは、受信電波を「AT」（AUTO）に設定することをお勧めします。

1. セット状態にする

時刻モードのとき

Ⓐ ボタンを約２秒間押します

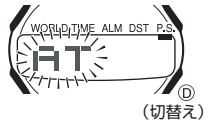
➡受信電波の設定になります。



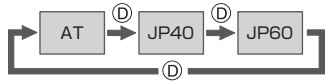
2. 受信する電波を選ぶ

Ⓓ ボタンを押します

➡Ⓓ ボタンを押すごとに受信する電波が切り替わります。



- ホームタイム都市がTYOのときは、次の順に切り替わります。



- ホームタイム都市がLAX、DEN、CHI、NYCのときは、右のように表示されて切り替えができません。



- ホームタイム都市がTYO、LAX、DEN、CHI、NYC以外のときは、右のように表示されて切り替えができません。



● AT（AUTO）
「おおたかどや山標準電波送信所（40kHz）」と「はがね山標準電波送信所（60kHz）」からの電波のうち、受信しやすい方を自動的に選びます。
※前回受信に成功した方の電波を優先的に受信します。

● JP40
「おおたかどや山標準電波送信所（40kHz）」からの電波のみを受信します。

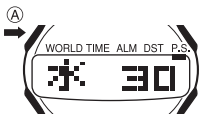
● JP60
「はがね山標準電波送信所（60kHz）」からの電波のみを受信します。

● US60
コロラド州のFort Collinsからの電波を受信します。

3. セットを終わる

Ⓐ ボタンを２回押します

➡点滅が止まり、時刻モードの表示に戻ります。



※ 点滅表示のまま2～3分間すると、自動的に点滅が止まります。

■受信に関するご注意

- 自動受信は時刻モードとワールドタイムモードでのみ行なわれます。
- 自動受信中にボタン操作を行なうと、確認音が鳴り、受信を中断します。
- 受信は送信されている電波の届く範囲内で行なってください。
  ただし、電波の届く範囲内でも、地形や建物の影響を受けたり、季節や時間帯（昼・夜）などによってうまく受信できないことがあります。
- 電波障害により、誤った信号を受信することがあります。そのときは、再度受信を行なってください。
- 本機は日本およびアメリカで送信されている電波に合わせて設定されていますので、電波が届かない地域では通常の時計としてご使用ください。
- 電波受信を行なわないときは、平均月差±20秒以内の精度範囲で動きます。
- 極度の静電気により、誤った時刻を表示することがあります。
- 受信中にアラームが鳴ると、受信を中断します。
- 本機のカレンダー機能は2099年までですので、2100年以降は受信してもエラーとなります。

■こんなときには

1. 電波が受信できません。

●電波の送信が中断していませんか。
電波時計が利用している標準電波（JJY）は、独立行政法人通信総合研究所（CRL）により運営されておりますが、保守作業や雷対策等で一時的に送信が中断されることがあります。

●電波が受信できない地域にいませんか。
電波受信ができる地域は、「■電波の受信範囲の目安」をご覧ください。

●電波受信環境が悪い場所にいませんか。
電波受信できる地域であっても電波が遮断されたり、発生するノイズにより受信しにくくなります。受信はこのような場所を避けて行なってください。（「■使用場所について」参照）

●ホームタイム都市が間違って設定されていませんか。
ホームタイム都市の設定が日本（TYO）、ニューヨーク（NYC）、シカゴ（CHI）、デンバー（DEN）、ロサンゼルス（LAX）以外の場合は、電波受信を行ないません。「●ホームタイム都市の設定」をご覧になり、ホームタイム都市を正しく設定してください。

●自動受信設定がオフ（OF）になっていませんか。
「●自動受信の設定」をご覧になり、自動受信設定をオン（ON）に設定してください。

●自動受信を行なう時間帯（午前12・1・2・3・4・5時）に、時刻モードまたはワールドタイムモード以外になっていませんでしたか。
自動受信は時刻モードまたはワールドタイムモードでしか行なわれませんので、自動受信時間帯は他のモードに切り替えないでください。

2. 電波を受信したのに、時報と時計の表示が若干ずれています。

●電波時計は標準電波を受信して時刻修正を行ないますが、時計内部の演算処理等により若干（1秒未満）のずれが発生します。

3. 電波を受信したのに、時刻がちょうど1時間進んでいます。

●サマータイムの設定がオン（ON）になっていませんか。
「●サマータイムの設定」をご覧になり、サマータイムの設定をオート（A）またはオフ（OF）にしてください。

4. 電波を受信したのに、時刻がくるっています。

●ホームタイム都市の設定が日本（TYO）ではなく、外国都市に設定されていませんか。「●ホームタイム都市の設定」をご覧になり、ホームタイム都市を正しく設定してください。

5. 自動受信設定をオン（ON）にしているのに受信マーク（📡）が表示されません。

●受信マークは受信が成功し、時刻修正が行なわれた場合に表示しますので、一日に一度も受信に成功していない場合は表示されません（毎日午前3時にマークが消えます）。自動受信時間帯に電波の届く場所で使用しているか、また時刻モードまたはワールドタイムモードになっているかを確認してください。

6. 自動受信の切り替えのときにオン（ON）またはオフ（OF）が表示されません。

●ホームタイム都市の設定が日本（TYO）、ニューヨーク（NYC）、シカゴ（CHI）、デンバー（DEN）、ロサンゼルス（LAX）以外の場合は、オン（ON）またはオフ（OF）は表示されません。「●ホームタイム都市の設定」をご覧になり、ホームタイム都市を正しく設定してください。

7. 受信電波の選択でATまたはJP40、JP60が表示されません。

●ホームタイム都市の設定が日本（TYO）以外の場合は、ATまたはJP40、JP60が表示されません。「●ホームタイム都市の設定」をご覧になり、ホームタイム都市を正しく設定してください。

8. 自動受信は何時頃行なわれるのですか。

●自動受信は電波状況の良い夜間に行なわれます。夜間にお休みのときは、電波送信所方向の窓際に時計の12時位置（受信アンテナ部）を外に向けて置いてください。

9. 手動受信のしかたは？

●時刻モードのときにⒹボタン（右下）を約2秒間押し続けます。“ピッ”と確認音が鳴って手動受信が開始されますので、電波送信所方向の窓際に時計の12時位置（受信アンテナ部）を外に向けて置いてください。

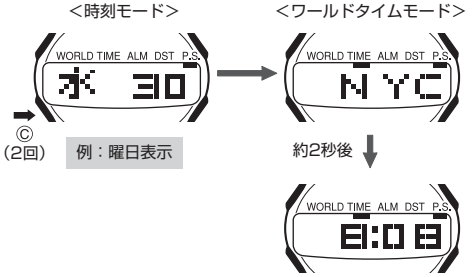
10. 受信日時の確認のしかたは？

●時刻モードのときにⒹボタン（右下）を1回押します。電波受信が成功して、時刻修正された日時が表示されます。
時刻モードに戻すには、もう一度Ⓓボタンを1回押します。（「■電波受信に関する設定」参照）

ワールドタイムの使い方　Ⓒボタンを押して、ワールドタイムモードにします。

ワールドタイムモードでは、世界30都市（29タイムゾーン）の時刻を簡単に知ることができます。

※ワールドタイムモードに切り替えると、前回このモードで最後に見た都市の時刻を表示します。
※ワールドタイムの「秒」は基本時刻の「秒」に連動しています。
※ホームタイム（基本時刻）を24時間制にしているときは、ワールドタイムも24時間制で表示されます。



■ご注意■
ワールドタイムが合っていないときは、時刻モードの時刻およびホームタイム都市設定を確認し、違っているときは正しくセットしてください。

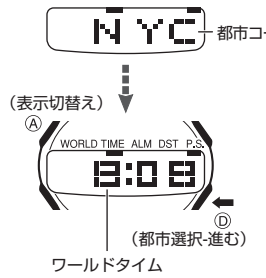
* セットについては「時刻・カレンダーの合わせ方」、「●ホームタイム都市の設定」参照。

■都市のサーチ

ワールドタイムモードのとき

Ⓓ ボタンを押します

➡Ⓓボタンを押すごとに都市コードが進みます。都市コードを表示後、その都市の時刻を表示します。
※押し続けると早送りします。



※Ⓐ ボタンを押すと、都市コードを約2秒間表示します。

■サマータイム（DST）について

サマータイムとはDST（Daylight Saving Time）とも言い、通常の時刻から1時間進める夏時間制度のことです。サマータイムの採用時期は国や地域により異なりますし、採用していないところもありますのでご注意ください。

■サマータイムのON／OFF設定

準備：ワールドタイムモードのとき、Ⓓ ボタンを押して、設定したい都市を選びます。

Ⓐ ボタンを約2秒間押します

➡Ⓐボタンを約2秒間押すごとにサマータイムのON／OFFが切り替わります。
※サマータイムがONのときは、DSTマークが点灯して、通常の時刻より1時間進みます。
※各都市ごとにサマータイムを設定することができます。ただし、“GMT”とホームタイムで設定している都市を表示しているときはサマータイムの設定はできません。



■都市コード一覧

コード	時差	都市名	コード	時差	都市名
----	-11		JRS	+2	エルサレム
HNL	-10	ホノルル	JED	+3	ジェッダ
ANC	-9	アンカレジ	THR	+3.5	テヘラン
LAX	-8	ロサンゼルス	DXB	+4	ドバイ
DEN	-7	デンバー	KBL	+4.5	カブール
CHI	-6	シカゴ	KHI	+5	カラチ
NYC	-5	ニューヨーク	DEL	+5.5	デリー
CCS	-4	カラカス	DAC	+6	ダッカ
RIO	-3	リオデジャネイロ	RGN	+6.5	ヤンゴン
----	-2		BKK	+7	バンコク
----	-1		HKG	+8	香港
GMT	+0	<グリニッジ標準時>	SEL	+9	ソウル
LON	+0	ロンドン	TYO	+9	東京
PAR	+1	パリ	ADL	+9.5	アデレード
BER	+1	ベルリン	SYD	+10	シドニー
ATH	+2	アテネ	NOU	+11	ヌーメア
CAI	+2	カイロ	WLG	+12	ウェリントン

※この表は2003年6月現在作成のものです。
※この表の時差は協定世界時（UTC）を基準としたものです。

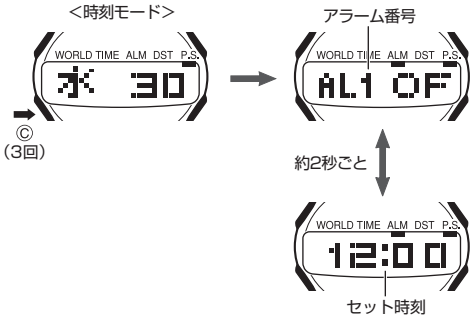
CASIO

アラーム・時報の使い方

Ⓒボタンを押して、アラームモードにします。

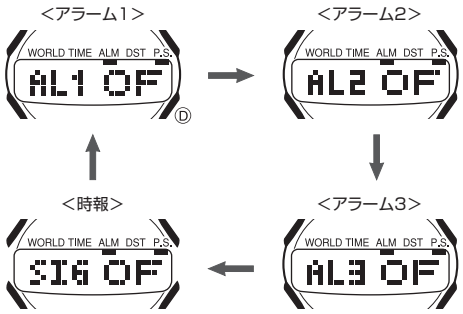
アラームは分単位でセットでき、セット時刻になると約10秒間の電子音で知らせてくれます。
アラームは3本あり、いずれも同じ使い方ができます。
また、毎正時（00分）にピッピッと電子音で時報を鳴らすこともできます。

アラームモードに切り替えると、前回このモードで最後に見たアラーム番号のセット時刻を表示します。



■アラーム・時報を選ぶ

アラームモードで Ⓓ ボタンを押すごとに以下の順でアラームや時報が切り替わります。



■アラーム時刻のセット

例）アラーム2に午後3時30分をセット

1. セットしたいアラームを選ぶ

Ⓓ ボタンを押します

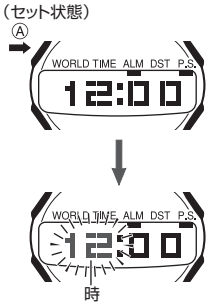
➡Ⓓ ボタンを押すごとに切り替わりますので、セットしたいアラーム番号を表示させます。



2. セット状態にする

Ⓐ ボタンを約2秒間押します

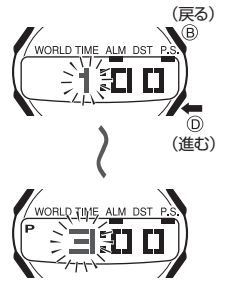
➡「時」が点滅します。
※ 自動的にアラームがオンになります。



3. 「時」をセットする

Ⓓ または Ⓑ ボタンを押します

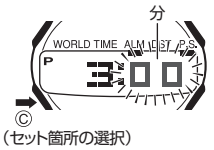
➡Ⓓ ボタンを押すごとに1つずつ進み、Ⓑ ボタンを押すごとに戻りますので午後3時を表示させます。
※ Ⓓ・Ⓑ ボタンとも押し続けると早送りができます。
※「時」のセットのとき午前／午後(P)、または24時間制にご注意ください。
※ ホームタイムを24時間制にしているときは、アラーム時刻も24時間制で表示されます。



4. 「分」のセットに切り替える

Ⓒ ボタンを押します

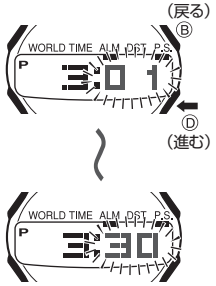
➡「分」が点滅します。



5. 「分」をセットする

Ⓓ または Ⓑ ボタンを押します

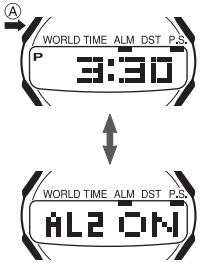
➡Ⓓ ボタンを押すごとに1つずつ進み、Ⓑ ボタンを押すごとに戻りますので30分を表示させます。
※ Ⓓ・Ⓑ ボタンとも押し続けると早送りができます。



6. セットを終わる

Ⓐ ボタンを押します

➡点滅が止まり、セット完了です。



※ 点滅表示のまま2～3分間すると、自動的に点滅が止まります。

■アラーム・時報のオン／オフ

1. オン／オフしたいアラーム・時報を選ぶ

Ⓓ ボタンを押します

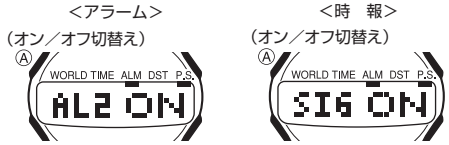
➡Ⓓ ボタンを押すごとに切り替わりますので、アラーム番号を表示させます。



2. オン／オフを切り替える

Ⓐ ボタンを押します

➡押すごとにオン（ON）とオフ（OF）が切り替わります。



●鳴っている電子音を止めるには

いずれかのボタンを押します。

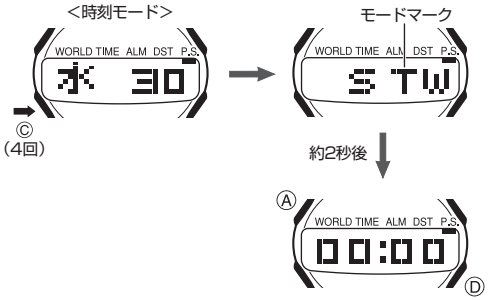
●モニターアラーム

アラームモードで Ⓓ ボタンを押し続けると、押している間、アラーム音が鳴ります。

ストップウオッチの使い方

Ⓒボタンを押して、ストップウオッチモードにします。

ストップウオッチは1/100秒単位で99分59秒99（100分計）まで計測できます。以後、計測範囲を超えると、自動的に0に戻って計測し続けます。

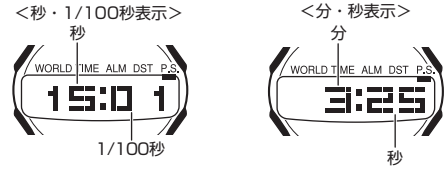


Ⓐ ボタン
●スプリット／リセット
・計測中に押すとスプリットタイムを表示
・計測停止中に押すと計測をリセット

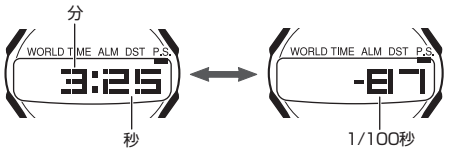
Ⓓ ボタン
●スタート／ストップ
・押すごとに計測がスタート／ストップ

●表示切り替え

・計測中の表示
計測開始時は「秒・1/100秒」を表示しますが、1分を越えると自動的に「分・秒」表示に切り替わります。



・計測停止中の表示
「分・秒」表示と「1/100秒」表示が1秒ごとに切り替わって表示されます。



●通常計測

Ⓓ スタート → Ⓓ ストップ → Ⓐ リセット

計測終了後 Ⓐ ボタンを押すと、計測値が 0 に戻ります（リセット）。

〈積算計測〉
ロスタイムのあるときは、ストップ後リセットせずに Ⓓ ボタンを押して再スタートすれば、表示タイムに引き続き計測を始めます。

●スプリットタイム（途中経過時間）の計測

Ⓓ スタート → Ⓐ スプリット計測 → Ⓐ スプリット解除 → Ⓓ ストップ → Ⓐ リセット

計測中に Ⓐ ボタンを押すと、表示は止まりますが、内部では計測を続けるスプリット計測となります。
※スプリット計測中にモードを切り替えると、スプリットは解除されます。

●1・2 着同時計測

Ⓓ スタート → Ⓐ 1着ゴール（1着タイム表示） → Ⓓ 2着ゴール → Ⓐ 2着タイム表示 → Ⓐ リセット

スプリットタイム表示中に Ⓓ ボタンを押すと、スプリットタイムを表示したまま計測が停止します。
このとき Ⓐ ボタンを押すと、スプリット表示が解除され、停止した時間を表示します。

スプリット表示

スプリット計測中の表示は、スプリットマークと「分・秒」、「1/100秒」が切り替わって表示されます。

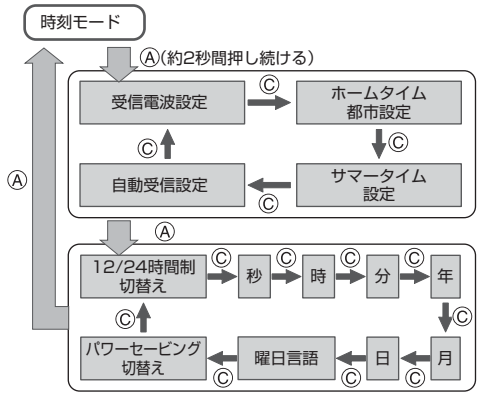


時刻・カレンダーの合わせ方

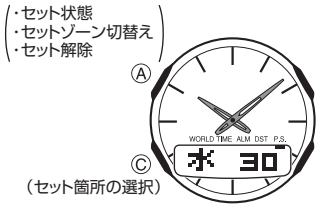
時刻・カレンダー合わせは時刻モードで行ないます。

デジタル部とアナログ部の時刻を同時に修正するときは、デジタル部の時刻を先に修正してください。

■ セット内容



※セット状態（表示の一部が点滅）のときに Ⓒ ボタンまたは Ⓐ ボタンを押すと、上記順に点滅箇所が移動します。



曜日表示は日本語(漢字)または英語を選ぶことができます。
※切り替えについては「■デジタル部の合わせ方」をご覧ください。

★英語表示（曜日）の見方

SU：日　MO：月　TU：火　WE：水
TH：木　FR：金　SA：土

電波受信の設定、ホームタイム都市の設定、サマータイムの設定、自動受信の設定については、「■電波受信に関する設定」をご覧ください。

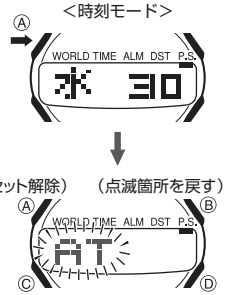
■ デジタル部の合わせ方

1. セット状態にする

時刻モードのとき

Ⓐ ボタンを約 2 秒間押します

➡受信電波の設定になります。



2. セットゾーンを切り替える

Ⓐ ボタンを押します

➡「12/24時間制切替え」となり、セット内容が点滅します。

例）12H（12時間制）

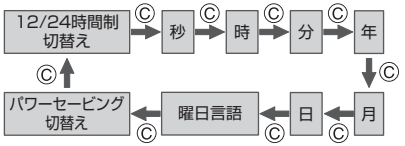


3. セット桁を送る

Ⓒ ボタンを押します

➡Ⓒ ボタンを押すと点滅箇所が下図の順に移動しますので、合わせたい箇所を点滅させます。





4. セットする

a．12/24 時間制切り替えのときは

Ⓓ ボタンを押します

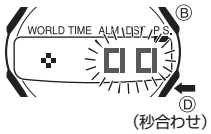
➡Ⓓ ボタンを押すごとに 12時間制表示（12H）と 24 時間制表示(24H）が切り替わります。



b．秒合わせのときは

Ⓓ ボタンを押します

➡Ⓓ ボタンを押すと「00 秒」からスタートします。
※ 秒が00～29のときは切り捨てられ、30～59のときは 1 分繰り上がって「00 秒」になります。
※ Ⓑ ボタンを押すごとにライトの点灯時間を切り替えることができます。(「●点灯時間の設定」参照)



c．時・分・年・月・日合わせのときは

Ⓓ または Ⓑ ボタンを押します

➡Ⓓ ボタンを押すごとに 1 つずつ進み、Ⓑ ボタンを押すごとに戻ります。
※ Ⓓ・Ⓑ ボタンとも押し続けると早送りができます。
※「時」のセットのとき、午前／午後(P)および 24 時間制にご注意ください。
※「年月日」は西暦で2000年1月1日～2099年12月31日までセットできます。
※ 曜日は年月日を合わせると自動的にセットされます。

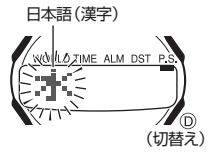


★カレンダーはうるう年および大の月、小の月を自動判別するフルオートカレンダーです。

d．曜日言語切り替えのときは

Ⓓ ボタンを押します

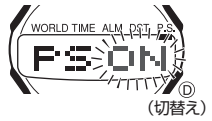
➡Ⓓ ボタンを押すごとに日本語（漢字）と英語が切り替わります。



e．パワーセービング切り替えのときは

Ⓓ ボタンを押します

➡Ⓓ ボタンを押すごとにオン（ON）とオフ（OF）が切り替わります。

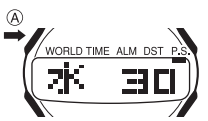


Ⓒ ボタンでセットしたい箇所を点滅させ、Ⓓ または Ⓑ ボタンで表示をセットする操作を繰り返し行ないます。

5. セットを終わる

Ⓐ ボタンを押します

➡点滅が止まります。

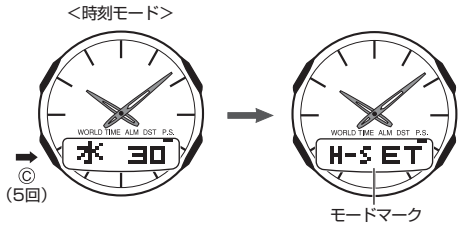


※ 点滅表示のまま2～3分間すると、自動的に点滅が止まります。

＜シンクロ機能＞
デジタル部の時刻修正後、アナログ針部の針も連動して修正されます。
※針の修正は、デジタル部の修正に合わせて送り（正転方向）または戻し（逆転方向）されます。
※針の修正は、デジタル部の修正時刻によって時間がかかることがあります。

■アナログ部（針）の合わせ方

アナログ部の時刻とデジタル部の時刻が合っていないときは、ハンドセットモードで合わせてください。



1. セット状態にする

ハンドセットモードのとき

Ⓐ ボタンを約２秒間押します

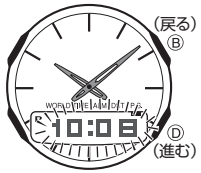
➡「時・分」が点滅します。



2. 時・分針を合わせる

Ⓓ または Ⓑ ボタンを押します

➡Ⓓ ボタンを押すごとに時計回りに 1/3 分（20 秒）ずつ進み、Ⓑ ボタンを押すごとに戻りますので、デジタル部の「時・分」丁度に時分針を合わせます。



※ Ⓓ・Ⓑ ボタンとも、押し続けると早送りします。

＜針の自動早送り＞
●Ⓓボタンを押し続けて早送り中にⒷボタンを押すと、ボタンを離しても針が進み続けます。
●Ⓑボタンを押し続けて早送り中にⒹボタンを押すと、ボタンを離しても針が戻り続けます。
●自動早送りは時針が一回りするか、いずれかのボタンを押すと止まります。

3. セットを終わる

Ⓐ ボタンを押します

➡点滅が止まり、分針はそのときの「秒」に合わせて自動的に修正されます。
※ 点滅表示のまま2～3分間すると、自動的に点滅が止まります。

